第２部　地区別計画

１　地区別計画策定の背景
２　地区別計画の意義
３　地区別計画策定までの経過
４　地区別計画
　　本町地区社会福祉協議会
　　南地区社会福祉協議会
　　東地区社会福祉協議会
　　北地区社会福祉協議会
　　大根地区社会福祉協議会
　　鶴巻地区社会福祉協議会
　　西地区社会福祉協議会

1　地区別計画策定の背景

第２期計画（計画期間：平成 19 年度～平成 23 年度）ではスローガンとしての「地区別福祉目標」を、第３期計画（計画期間：平成 24 年度～平成 27 年度）では、７地区に共通する課題の解決のための「地区社協活動に関する計画・共通計画」を策定してきました。

今回の第４期計画（計画期間：平成 28 年度～平成 32 年度）では、スローガンにとどまることなく、地区社協が、地域の課題解決に向けて行動するための自分たちの「地域福祉活動計画（行動プラン）」である具体的な取り組みを掲げた「地区別計画」を策定しました。

2　地区別計画の意義

昭和４３年に秦野市初の地区社協である「西地区社協」が設立されて間もなく５０年が経とうとしています。創設期にはひとり暮らし高齢者のためのお楽しみ給食会や地域交流会などが地区社協活動の中心でしたが、現在では、地域課題も複雑・多様化し、地域課題に沿って改めて地区社協活動を見直す時期を迎えています。また、活動の担い手不足や役員の高齢化など組織的な課題を抱える今だからこそ、それぞれの地区社協が独自の計画を立てて、活動を推進していくことが求められています。地区別計画を策定する上での共通の視点は次の３つです。

① 中長期的な見通しを持って継続的・段階的に地域課題の解決に取り組める。
② 地域の課題を地区社協関係者の間で共有できる。
③ 地区社協として取り組むべき課題の優先順位や重点が明確になる。

3　地区別計画策定までの経過

平成２７年９月に開催された第２回地域福祉活動計画推進委員会において、地区別計画策定の方針が承認されたことを受け、市社協から地区社協へ、地区別計画の必要性と計画策定の手順・スケジュールを示し、策定を依頼しました。

＜計画策定のスケジュール＞

①策定メンバーを決める	平成２７年９月～
②地域の課題や地区社協の課題を出し合う	平成２７年９月～１２月
③重点的に取り組む課題を絞り込む	〃
④解決のためのアイデアを出し合う	〃

⑤実施計画を決定する　　平成２８年１月
⑥地域福祉活動計画推進委員会へ提出　　平成２８年２月

３　地区別計画

次ページからは、地区社協が策定した地区別計画です。
地区別計画は、各地区社協から提出された形式で掲載しています。また、文体や表記についてはあえて統一せず、原文のまま掲載しています。

■　地区別計画の構成

設立年

地区社協名

地区社協活動目標

＜地区社協の活動内容に関する計画＞
◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）

＜体制と拠点＞
①役員や部会に関すること
②担い手や参加者を増やすこと
③拠点整備について
④広報、情報発信に関すること

カードワークによる課題整理

昭和５７年設立

本町（ほんちょう）地区社会福祉協議会

地区社協活動目標

『ふれあいの心を育てるまちづくり、
連帯と参加がつくるコミュニティー』

＜地区社協の活動内容に関する計画＞

◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）
高齢者の見守り	高齢者世帯が以前より増加している。	配食、ミニデイサービスおよび自治会を通じてご近所の見守り活動の継続	平成 28 年度
地域活動の楽しさの広報	自治会加入者の減少や自治会役員の担い手が確保できない状況になっている。	あらゆる機会をとらえて地域活動の楽しさと意義を地域住民に広く知らせる。	平成 29 年度
地域の中に気軽に集える場所の設置	高齢者が増えて医療費等の経費を抑えるため介護予防活動が重要になってきている。	ミニデイ等への参加者を増やす施策を取り入れると同時に、各自治会に高齢者と子育て世代が一緒に楽しめる（参加者の年齢制限を設けない）サロンを設置する。	平成 30 年度
地域福祉活動のためのボランティアの募集と育成	日常生活において助力を求めている高齢者が増加している。	地区社協だよりを通じてボランティア活動の楽しさを広報すると同時に各自治会を通じてボランティア活動の楽しさを住民に伝える。	平成 31 年度
地域福祉活動の拠点設置	日常生活において助力を求めている高齢者の要求がある。	市並びに市社協の強力な支援（施設提供、補助金を含む）を期待する。	平成 32 年度

＜体制と拠点＞

①役員や部会に関すること

今後、役員や部会を敬遠する傾向が強まることにならないよう、市社協の協力を得て、役員の負担軽減策として、事業をサポートするボランティアを地区住民から効果的に募集する方策を検討したい。

②担い手や参加者を増やすこと

地区社協として、多くのボランティアが誇りを持ってかつ各ボランティアにとっては負担が重くならないようなビジョンを持った制度を検討する。もし拠点が整備されても、ボランティア活動を担う人材を育てなければ、何も活動できないので、地区社協が先頭に立って、あらゆる機会をとらえて地域活動の楽しさとその意義を伝えていくことを推し進める。さらに、市社協に資金援助や人材育成に関するノウハウの提供をお願いする。

③拠点整備について

福祉活動を迅速に行うためには拠点整備が欠かせない。しかしながら、地区社協だけではその資金力と人材に限界があるので、市へ拠点整備を依頼するとともに、活動資金や人材確保に関する支援を市社協にお願いする。

④広報、情報発信に関すること

今までの地区社協だよりは１年間行ったイベントやボランティア活動の報告だけであったが、それらの活動を通じて地域にどのような効果を及ぼしたのか評価を含めた具体的かつ掘り下げた感動できる広報活動を行うように紙面の見直しをする。

昭和４８年設立

南（みなみ） 地区社会福祉協議会

地区社協活動目標

支えあう心豊かな地域づくり

＜地区社協の活動内容に関する計画＞

◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）
①地域の中で気軽に集える場所を作りたい	・高齢者が増えている ・一人暮らし高齢者の増加、ひきこもりや孤独な人の存在	・徒歩圏内にある自治会館を交流サロンとして利用 ・自治会館活用のため、効率的な計画、運営、自治会との連携、担い手の確保、運営資金などの検討	平成 28 年度
②地域福祉活動の拠点設置	・隣近所の付き合いが希薄になり、反面日常生活で助力が必要な高齢者が増えている	・秦野市、市社協の施設提供だけでなく、空き家の利用、人材確保への補助金や支援、資金確保の可能性を模索 ・福祉ニーズの把握、活動をサポートする人材の確保、などの検討を始める	平成 29 年度
③地域ぐるみで行うカギっ子対策	・夫婦共働きの若い核家族世帯が増加し、幼児の保育園だけでなく、学童の放課後保育・見守りの必要性が高まっている	・地域での学童保育について、場所や方法、サポートする人材などについて教育委員会等、関係機関との意見交換を通じ、その可能性を検討する。	平成 28 年度
④身体障害者等のふれあいの場を増やす試み	・地域社会での人間関係の希薄化は身障者には一層深刻である	・地域「ふれあいまつり」への招待を積極的に行い、「お花見会」や「一人住まい老人のつどい」にも参加できるような環境整備（車イスを運搬できるような車両の確保等）を検討する。	平成 28 年度

＜体制と拠点＞

①役員や部会に関すること

・慣例にとらわれずに新しいアイデアを取り入れられるような組織運営を図る。

②担い手や参加者を増やすこと

・参加者の中からサポーターになるような活動的人材を発掘する。

・幅広い世代に参加してもらい、担い手を増やす。
・効果的に情報を発信し、地域に眠っている“できる力”を活用する

③拠点整備について

・当面は自治会館を利用するが、市には空き家の借上げ料と活動資金の確保を、サポートする人材の確保には市社協の協力が不可欠である。

④広報、情報発信に関すること

・迅速な情報発信が効果的なので、現在の広報の見直し、インターネットのホームページの作成など、より情報効果の大きい方法を模索する。
・必要な経費の確保。

昭和５７年設立

東（ひがし） 地区社会福祉協議会

地区社協活動目標

いつでも　どこでも　誰もが助け合い、支えあうことのできる環境づくり

＜地区社協の活動内容に関する計画＞

◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）
サロンの増設	東地区における高齢化は、市の平均を上まわっている状況を考慮し、お年寄りから子供までを網羅した取り組みを行う。	東地区全体としての取り組みと、自治会単位としての取り組みが必要と考えられる。	
①青空サロンの開設	家庭での介護者が大変な思いをされている。問題を解決するための憩いの場的な場所の確保。	遊休地を利用した、誰もが気楽に集まれる場を作る。運営も組織的に行う。ボランティアの活用	平成 32 年度
②趣味の活用	引きこもりのお年寄りが多く、ふれあいの場への参加が少ない状況であるので少しでも引きこもりの人を表に出していただく手段として、趣味の活用を図り、高齢者の引きこもりの解消を図る。	高齢者のもっている特技、趣味を活かした活動、あつまることによるつながりを大切に。 自治会役員、高齢者、ボランティアを活用	平成 32 年度
③人々の交流と知り合いを増やす	地元住民と新興住宅地の人々との交流を深める。	ふるさと公園を利用した毎朝のラジオ体操の実施。担当はボランティア	平成 32 年度
④地域の仲間づくり	健康保持増進、ボランティアの活用が必要	運動による寝たきりゼロ運動、趣味活動の促進 ボランティアの活用	平成 32 年度
⑤高齢者見守りサロン	学区の２分化があり、地域の中でのまとまりが希薄	チラシなどにより季毎の安否確認、趣味特技を活かしたサロンへの勧誘。ニーズ対応チームの対応	平成 32 年度

⑥ふれあいお助けサロン	高齢化の著しい中、困り事を抱えているお年寄りが多い。 多様な趣味・特技を持つ人も多いのでこれらを一体としたサロン活動とする。	地区内での定年後の人材が年々増加している。こういった人たちの力を地域に活用するとともに、趣味を活かした活動も合わせて行う。 定年後の人材、ボランティア、自治会	平成 32 年度

＜体制と拠点＞

①役員や部会に関すること

取り組みの状況により、役員、専門部会等を設けて対応する。

②担い手や参加者を増やすこと

元気のある高齢者をはじめ、若年層の取り込みを考慮する。

③拠点整備について

取り組みによっては困難なものもあるが、市当局等の支援を仰ぎ整備を図って行く。

④広報、情報発信に関すること

市管轄、地区管轄、あるいは自治会管轄という区割りの中で、取り組みにあたっては最大の効果を考慮した対応としている組回覧などの配布を実施し、情報の提供を行う。

昭和５７年設立

北地区社会福祉協議会（きた）

地区社協活動目標

誰でも、地域で安心して暮らせる里づくり
～自治会や地域団体が連携する福祉のまちづくり～

＜地区社協の活動内容に関する計画＞

◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）
①既存事業の充実	福祉に対する意識が希薄となってきており、事業への参加者が少ない。	企画の段階からどこに参加できるか、事業の目玉は何か、効果的な情報の発信などなど検討し、事業を展開する。	平成３２年度
②地域団体のネットワーク化	お互い他の団体の情報把握ができていない。	定期的に連絡会を開催し、相互の状況把握に努める。	平成３２年度
③効果的な情報発信	自治会ってなに、地区社協ってなに、理解されていない。	現行紙面を見直す。発行の頻度、インターネットの活用、人材の確保、予算の確保	平成３２年度
④高齢者等が集う場（サロン）の設置	地域で孤立した高齢者が発生しつつある。	地域で定期的に集える場（サロン）の設置	平成３２年度
⑤拠点の整備	福祉ニーズに対応した活動拠点が必要	福祉ニーズの把握に努め、その状況により活動拠点の必要性について検討する	平成３２年度

＜体制と拠点＞

①役員や部会に関すること

- 役員の負担を分散する
- 事業を展開する際、単なる参加者でなく事業をサポートする参加者を募集する
- 広報活動で経費を安価にするため、パソコンの熟練者を発掘する

②担い手や参加者を増やすこと

- 事業を展開する際、単なる参加者でなく事業をサポートする
- 効果的な情報発信

③拠点整備について

- 福祉ニーズの把握に努め、その状況により活動拠点の必要性について検討する

④広報、情報発信に関すること

- 現行の広報の紙面を見直す
- 広報予算の確保
- 広報経費を安価にするため、パソコン熟練者を確保する
- インターネットの活用について研究する

昭和５７年設立

大根（おおね）地区社会福祉協議会

地区社協活動目標

「安全で安心して住めるまちづくり」を目指す。

市民が大根地区に住んで良かったと思えるまちになる。

☆大根地区の強みを生かして福祉活動の向上に活用する。

- 東海大学、秦野高校、大根中学校の若い力がある。
- 障がい者に関連する施設として、弘済学園、秦野精華園、ライフステージ・悠トピア、秦野厚生病院がある。
- 防災協定の締結先に弘済学園、秦野精華園、ライフステージ・悠トピア、なでしこ保育園、

＜地区社協の活動内容に関する計画＞

◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）
①地域に気軽に集える場所が少ない。	・ひきこもりの高齢者が増えてきた。 ・一人暮らし高齢者が増えてきた。	・自治会館を交流サロンとして活用する。 ・自治会館活用プロジェクトを立ち上げて、計画的に進める（担い手の確保、運営方法、自治会連携、資金作りなど）。 ・市の介護予防事業を活用する。	・自治会館活用方法を28年度中に作成する。 ・29年度より単位自治会活動を推進する。
②高齢化が進み地域のつながりが希薄化してきている。	・長く地元に住んでいる人が数％ぐらいと少ない。 ・冠婚葬祭が簡素化されてきている。 ・近所のお付き合いが少なく、希薄になってきている。 ・認知症の人が多くなって来る。 ・大根地区の高齢化率は28.1％と高く、40％以	・自治会単位のふれあい祭りなどを活発に開催する。 ・保育園や幼稚園との交流の機会をつくる。 ・認知症サポーター養成講座を東海大学と連携して開催する。	・ふれあい祭りを全自治会が年間１回以上開催する。 ・保育園や幼稚園との交流を年間２回以上持つ。 ・32年度までに、認知症サポーターを500名以上養成する。

	上の自治会が 5 ヶ所になっている。		
③障がい者への理解が不足している。	・大根地区に障がい者が約 90 名いる。 ・障がい者に関連する施設が4ケ所ある。 ・避難行動要支援者に 334 名登録されている（平成27年10月現在）。	・地域住民に障がい者を理解する機会を設ける。 ・障がい者施設との交流を行う。 ・避難行動要支援者の見守り活動を単位自治会が推進する。 ・社協として見守りのための活動費を自治会に支給する。	・障がい者理解の研修会を毎年 1 回以上開催する。 ・避難行動要支援者見守り活動費を継続支援する。
④社協構成団体の基盤が弱体化している。	・構成団体の会員数が減少して、消滅の恐れのある団体がある。 ・構成団体の活動内容が市民に知られていない。 ・自治会加入率が 48%と低い。	・社協だより「ふれあい」などで活動内容と会員募集を行う。 ・自治会加入を不動産業者の協力を得て促進する。 ・東海大学学生の協力を得るために不動産業者と連携する。自治会に不動産業者担当を置く。	・自治会の会員数を 32 年度までに 30 %アップさせる ・東海大学生協力者 2,000 名を 32 年度までに得る。
⑤市社協の活動が理解されていない。	・自治会加入者のうちに社協会員に加入している世帯数率は 72%である。 ・すべての自治会で、自治会長、組長、班長が 1～2 年で交代する。	・社協だより「ふれあい」などで活動内容を紹介する。 ・自治会長に対して自治会長研修会、事務連絡で活動を紹介する。 ・単位自治会で組長や班長に活動紹介の研修会を開催する。	・市社協普通会員の加入率を 32 年度までに 90％に高める。

＜体制と拠点＞

①役員や部会に関すること

- 役員の役割を明確にする。また専門担当部長をおく。
- 年度活動計画を作成し、理事会開催ごとに管理を行う。

②担い手や参加者を増やすこと

- ボランテイアを募集して、育成していく。
- 東海大学、秦野高校、大根中学校との連携を強化して、災害発生時に協力してもらう。
- 構成団体の会員を増やす。
- 自治会の力を活用する。

③拠点整備について

- まちづくり活動拠点の整備を市に要請する。
- 拠点運営マニュアルを作成する。
- バザーや寄付により活動資金を確保する。

④広報、情報発信に関すること

・協力団体の活動状況紹介を組回覧で行う。
・社協広報紙「ふれあい」を年３回以上発行する。
・タウンニュースに随時投稿する。

地区別計画策定の様子（大根地区社協）

平成１８年設立

つるまき
鶴巻地区社会福祉協議会

地区社協活動目標

１『みんなが進んで参加する魅力ある福祉活動』

（１）共生と連帯感を育もう。

（２）自由な発想で一致団結し、楽しくやりがい感のある活動をしよう。

２『自立し、楽しく生きがいのある、すんでよかったまちづくりの推進』

（１）ふれ合い、支え合い、話し合いのある主体的な活動を進めよう。

（２）地域の魅力を生かした行事や活動を工夫しよう。

＜部会目標＞

（１）広報部会・・・地域福祉活動の紹介

①地域福祉活動啓発のための広報紙発行（年３回）。

②地域福祉活動啓発のための活動記録や DVD の作成（春まつり、あじさいまつり等）。

（２）自立支援部会・・・介護予防、各種サロン支援活動

①敬老会。②安否確認訪問。③料理教室（大人）。④各種サロンの開催（介護予防）。

（３）子育て支援部会・・・若い母親や保護者への支援

①夏休みあそぼう会。　②ちびっこ広場。

③子育てサロン。　④市民ふれあいまつりやはばたき祭への協力。

（４）障がい部会・・・障がいの理解と啓発

①地元地域の福祉施設の行事への協力や施設見学、学習会。市民ふれあいまつり等の地域活動を通して健常者と障がい者がお互いを理解することと、その啓発を図る。

②子ども料理教室（鶴巻小学校特別支援級児童との交流および学校行事との連携を図る）。

（５）つるまき市民ふれあいまつり・・・みんなでつくろう輪と絆

①鶴巻地区すんでよかったまちづくり委員会のもとでの実施。

②自治会連合会も一員として位置づける。

（６）ボランティアセンター・・・高齢者支援を主に、住民同士の支え合い活動

①生活支援（ちょっとした困りごとのお手伝い）。

②活動拠点づくり。

（7）運営資金づくり

①地元朝採り野菜の販売（月水金：午前９時~12 時）。

②各種催しの参加者負担金（車椅子の貸出、落語、パソコン教室、歌声喫茶）。

＜地区社協の活動内容に関する計画＞

◇　具体的な取り組みの計画

テーマ（優先的に取り組みたい課題）	テーマに関する背景	どう取り組むか（テーマに沿って取り組む具体的な内容）	いつまでに取り組むか（目標年度）
①地域福祉活動啓発１（広報）	地区社協・小地域福祉活動について知らない人が多い。	より多くの住民に知ってもらい、参加してもらうための、紙面づくり「読まれる社協だより」をモットーに「つるまき社協だより」を発行（年３回）する。	平成 30 年度
②地域福祉活動啓発２（広報）	発表の機会づくりを工夫することで、住民への地区社協への理解をすすめる。	発表の機会づくりを検討する（たこあげ大会で上映するなど）。 その他、春まつり、あじさいまつり、市民ふれあいまつり等の活動記録や DVD の作成をする。	平成 32 年度
③敬老会（自立支援）	団塊世代の大量入会。	東海大学への働きかけによる長期的な会場の借用を確保する。	平成 32 年度
④安否確認の在り方（自立支援）	独居、高齢者世帯の増加による安否確認の仕方がわからない。	増加する高齢者への対応（安否確認の方法）を検討する。 自治会未加入者への働きかけを検討する。	平成 32 年度
⑤料理教室（男性）（自立支援）	ニーズの多様化（参加さを増やす・参加者の満足度を上げる）。	「魅力ある料理教室とは」を目標に様々な取り組みを検討する。	平成 32 年度
⑥夏休みあそぼう会（子育て）	役員の高齢化と確保に対する懸念とボランティアの確保。	役員等の確保、幅広いボランティア層の確保にむけて検討する。	平成 30 年度
⑦ちびっこ広場（子育て）	参加者数をさらに増やす。 子育て世帯の地区社協への関心や参加の低さ。	地域への周知および啓発活動を活発にし、子育て世帯への応援と、次世代の担い手として、地区社協への理解関心を高めてもらう。	平成 30 年度
⑧福祉施設行事への協力（障がい）	鶴巻地区内にある福祉施設との協力体制。	鶴巻地区内にある福祉施設の周知を地区社協としても行い、連携について話し合う。	平成 30 年度
⑨料理教室（子ども・障がい）	参加者数を増やす。 実施場所の検討（公民館では手狭）。	鶴巻小学校特別支援級との連携強化（学校との話し合いを充実させる）。	平成 30 年度
⑩ボランティアセンター（ボランティア）	ボランティアの募集（担い手育成）。	担い手の発掘と育成及び継続について、検討する（ボランティ	平成 32 年度

		ア養成講座・ボランティア相談・視察研修など)。	
⑪活動拠点づくりⅠ（ボランティア）	ふれあい生き生きサロンづくりを拠点で定着させる。 多くの人に親しまれ、入りやすい拠点とする。	ボランティア団体や趣味の会との連携を図る。公民館との連携を図る。 さまざまな催しを企画し、住民の方が参加しやすいようメニュー化（定例化）する。またそのこで、広報もしやすくなる。 「ほっとワークつるまき」の今後について（場所、維持管理）検討する。	平成 32 年度
⑫活動拠点づくりⅡ ※利用者が交通に便利な場所探し	高齢者の増大から、なるべく自宅から近い場所でサロン等を開催したい（複数個所あるといい）	駅周辺の空き家等を探す。予算確保について検討する。	平成 35 年度

テーマの（　）内は担当部会名

昭和４３年設立

西地区社会福祉協議会（にし）

地区社協活動目標

みんなで支えあい、安心して暮らせる地域づくり

- 地域での支えあい活動を大切にする事業展開
- 地域づくりの拠点の整備
- 50 周年記念事業の実施
- 組織の改編

1　西地区社協の原点を振り返る

- 西地区は昭和 42 年に地区社協推進地区に指定され、昭和 43 年に西地区社協を設立した。
- 昭和 57 年には、秦野市全地区に地区社協が設立され、自治会組織を加え、地区自治会連合会長が地区社協会長に就いた。
- 昭和 63 年には、秦野市役所西支所２階に「西地区ボランティアセンター」を開設し、当時の婦人民生委員やコーディネーターを中心に、行政の手が届かない福祉として電話による見守りなどの事業を展開した。その後、西公民館に場所を移して事業を継続したが活動の広がりが見込めず、平成 16 年にボランティアセンターは閉鎖された。
- 西地区社協の活動は、独居老人に対する年数回のお楽しみ会食（現在は配食サービス）、地域交流会と福祉まつりなどが主なものであった。

2　基本的考え方

（１）地域での支えあい活動を大切にする事業展開

- 高齢や障害を持つようになっても今まで通り社会活動に参加できることで自分らしく誇りを持って生活を送れるようにするため、在宅で暮らせる行政の福祉サービスに加えて、地域の人々との結びつきを深め支えあいや交流活動を行う必要がある。
- 防犯や防災など、地域社会の生活基盤をお互いに支えあっている組織が自治会であり、その中で支援が必要な人たちに地域住民の立場からサポートするのが自治会や関係団体で組織されている地区社協である。
- 地域の行事や自治会活動などふれあう場づくりが基礎となり、人の和を創ることが支えあいの一歩になる。
- ふれあう場づくりとして地域のサロン活動は有効な手段の一つである。また、各地域で行っ

ている年中行事や活動もふれあう場であり、他地域で参考にできるような取り組みも行う。
・ふれあい祭りの、自治連、住みよい町づくり委員会、民児協、関連団体などとの共同開催や、一人暮らし高齢者への配食・年末慰問についても、社会の変化（同居ではなく近居隣居、一人で自由に暮らすなど）に照らして見直しを検討する。

（2）地域づくりの拠点の整備

・拠点の主な機能としては、子どもから高齢者まで誰でも集える施設として、ボランティアセンターとして、地域間の情報交換・発信の場として、自治会や地区社協などの事務局機能として、などの活動ができることが必要である。
・拠点の配置は、西地区の社会的な中心地域である渋沢駅周辺に施設を整備したい。
・地域毎のサロン活動などのふれあいの場づくりは、それぞれの地域の自治会館や児童館、公民館などを活用して歩いて気楽に行ける施設を中心に開催する。（78 ページ地図参照）

（3）50 周年記念事業の実施

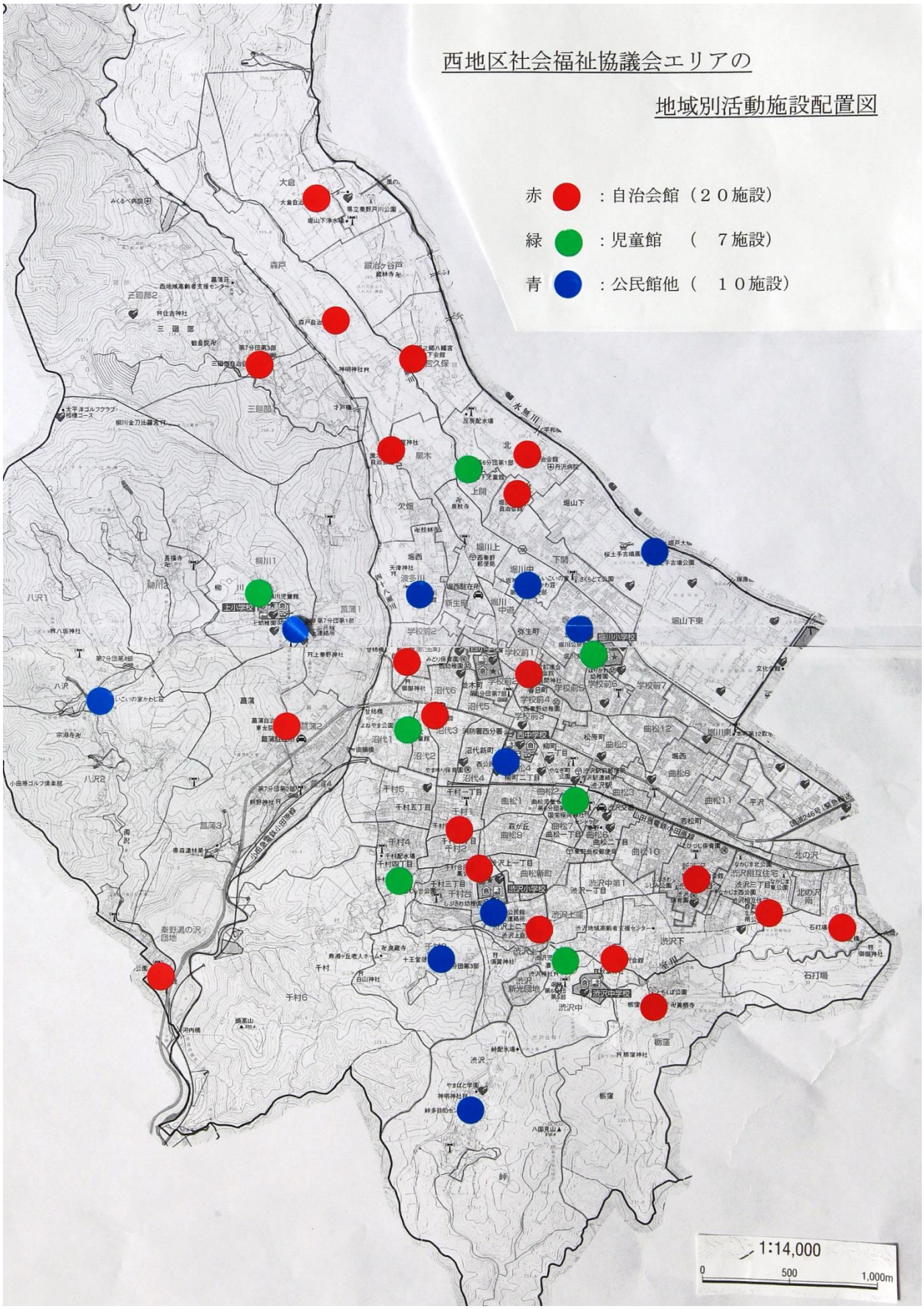
・西地区社協は、昭和 43 年に発足して今年で 47 年を迎える。
地区社協の先駆けとして地域の助け合いを広めるため先輩諸氏による活動が受け継がれてきた。
・平成 30 年に 50 周年を迎えるに当たり、50 周年記念式典や記念誌作成などの記念事業を計画する。記念誌については、編集委員会を立ち上げて足跡をまとめ、今後のさらなる発展のため西地区社協 50 周年記念誌として発行する。

（4）組織の改編

・西地区社協活動を円滑に行い、地域の支えあい活動を充実させる組織に改編する。

3　具体的な取り組み計画

・5 ヵ年計画を反映した各年度計画を立案し、評議員会での決議をもって、具体的な取り組み計画とする。


西地区社会福祉協議会エリアの
地域別活動施設配置図
赤 ：自治会館（２０施設）
緑 ：児童館 （ ７施設）
青 ：公民館他（ １０施設）
1:14,000
0
500
1,000m